

## ヤマト運輸函館ベイ支店

## 就労支援NPOに業務委託

## 障害者ら繁忙期の力に

函館市内の宅配事業所が、障害のある市民や生活困窮者の就労支援を行っているNPOにアルバイト業務を委託し、師走の人手不足解消に役立てている。就労支援NPOへの宅配業者の業務委託は道内で珍しく、現在毎日7人が、函館朝市に近い集配センターで荷物の仕分け作業などを行っている。

(福本泰範)

業務委託を行っているのはヤマト運輸函館ベイ支店で、NPO法人シゴトシンク北海道(函館)が受託した。このNPOは、相談を受けた障害者や、働く場が見つからない生活困窮者の就労を支援しており現在、約40人が登録している。

同支店は函館朝市のエリアなどを担当。集配を行う朝市センターは、歳暮など贈答品配送が増える12月が

1年で最も忙しく例年、上旬は1日約1500個の荷物を扱う。下旬には同5千個に膨らむ。40人以上のアルバイトが必要だが、年々確保が難しくなっているという。

そこで同支店は、一般アルバイトの賃金水準をベースに、11月20日から12月末までシゴトシンク北海道と業務委託契約を結ぶことにした。

働いているのは、発達障害がある人や、市から紹介された生活保護受給者らで、NPOの引率者と一緒にセンターに通っている。

朝市から届いた荷物と伝票を照合し冷凍・冷蔵、配達時間の午前・午後などを区別して仕分けする。また料金請求などの情報の端末入力も行う。仕事になかなか見つからなかったという佐藤仁さん



朝市センターで仕分け作業などを行うシゴトシンク北海道の利用者たち

(51)は「仕事は大変だが慣れば大丈夫。この仕事をバネに来年も就職活動を続けたい」と意欲を示す。

同支店の村上五月支店長は「想定以上の仕事をしてきている。まじめで欠勤がないこともありがたい。」

今後も積極的に仕事をお願いしたい」と話す。

シゴトシンク北海道の清野侑亮理事長は「障害がある方や生活困窮者も重要な働き手であることを伝えたい」と強調している。